

9:1 聖徒たちのためのこの奉仕については、いまさら、あなたがたに書き送る必要はないでしょう。

9:2 私はあなたがたの熱意を知り、それについて、あなたがたのことをマケドニヤの人々に誇って、アカヤでは昨年から準備が進められていると言ったのです。こうして、あなたがたの熱心は、多くの人の奮起させました。

9:3 私が兄弟たちを送ることにしたのは、このばあい、私たちがあなたがたについて誇つたことがむだにならず、私が言っていたとおりに準備していくもらうためです。

9:4 そうでないと、もしマケドニヤの人が私といっしょに行って、準備ができないのを見たら、あなたがたはもちろんですが、私たちも、このことを確信していただけに、恥をかくことになるでしょう。

9:5 そこで私は、兄弟たちに勧めて、先にそちらに行かせ、前に約束したあなたがたの贈り物を前もって用意していただくことが必要だと思いました。どうか、この献金を、惜しみながらするのではなく、好意に満ちた贈り物として用意しておいてください。

9:6 私はこう考えます。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。

9:7 ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。

9:8 神は、あなたがたを、常にすべてのことにも満ちたりて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるば

かり与えることのできる方です。

9:9 「この人は散らして、貧しい人々に与えた。その義は永遠にとどまる。」と書いてあるとおりです。

パウロは献金について述べます。献金はもちろんたくさんあれば力になりますが、最も大切なのは献金する者の心であり信仰です。教会は献金によって大いに前進しますが、それもささげる私たちの謙遜な信仰があればこそです。また神様から報いをいただくという、純粹に神様を見上げる信仰があればこそです。

パウロはコリント教会の人々にもその点で成長が必要と判断しました。しかし、彼は人々の良さを見つけて、それをほめるということを忘れません。それは単なる処方箋のような人間関係ではなく、神様が人と教会にどのように働いて来られたのかを知って、神様に感謝するためであり、人と教会を正しく導くためです。

献金はまず、「準備」しておくべきです。行き当たりばったりの献金では、主に心をささげたことになりません。主に感謝の祈りをささげつつ、備えておきましょう。

また献金は教会の光榮です。信仰が表れた善き献金でなければ、パウロたちが「恥をかく」ことになるでしょうが、逆に善き献金は光榮になるということです。

したがって献金は「惜しみ」なくするものです。しぶしぶ、または人の様子を見ながら献金するのではなく、主に心からささげたことになります。主は心をごらんになります。献金は主にささげるものです。主に喜んでもらいましょう。

「豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります」「神は喜んで与える人を愛してくださいます」というのは、眞実であり事実です。そのような幸いな経験をたくさんさせていただきますよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

